

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003001	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー（多文化） / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	野田 智子		
授業担当教員名（科目責任者） / Instructor in charge of the course	野田 智子		
授業担当教員名（オムニバス科目等） / Instructor(s)	野田 智子		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目（第2欄）, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等） / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	担当教員に確認すること		
担当教員研究室/Office	担当教員に確認すること		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	担当教員に確認すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自主的な学びの仕組み（アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明） 文章の書き方（アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング） 文章の読み方（クリティカル・リーディング） 情報リテラシーとモラル（引用の仕方、不正行為（剽窃・盗用）、情報リテラシー、教員への質問の仕方（研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む）） 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心（テーマ）の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで） / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	Y
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション：資料収集ガイダンス 当日はPC持参で直接 e-room(中央図書館 2F 別館)に集合 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業：附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習：2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアピール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003002	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	葉柳 和則 / Kazunori Hayanagi		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	葉柳 和則 / Kazunori Hayanagi		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	葉柳 和則 / Kazunori Hayanagi		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	担当教員に確認すること		
担当教員研究室/Office	担当教員に確認すること		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	担当教員に確認すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自主的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアビール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アビール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003003	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	賽漢卓娜 / Saihanjuna		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	saihanjuna▲nagasaki-u.ac.jp(メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	総研棟11階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2925		
担当教員オフィスアワー/Office hours	メールによる質問を受け付け、その上面談時間を決めます。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自立的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアビール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アビール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003004	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	YNACAY NYE ALAYNA DEANNE IRENE		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	aynacaynye▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟10F		
担当教員TEL/Tel	aynacaynye▲nagasaki-u.ac.jp(メールを送信する際は▲を@に変更して送信してください)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	随時。事前Eメールで事前に日時を相談してください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自立的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	教材 アカデミック・スキルズ(第3版)——大学生のための知的技法入門：佐藤 望【編著】/湯川 武/横山 千晶/近藤 明彦【著】 論文・レポートの基本—この1冊でちゃんと書ける!：石黒 圭【著】
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアピール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエストへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる

第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る（対面） 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解
第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエストとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	月 / Mon 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003005	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	福田 紗耶香		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	福田 紗耶香		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	福田 紗耶香		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	fukuda.sayaka▲nagasaki-u.ac.jp(メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	総研棟10F		
担当教員TEL/Tel	fukuda.sayaka▲nagasaki-u.ac.jp(メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前にメールで連絡してください。		
授業の概要及び位置づけ/Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自立的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標/Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで)/Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法/Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック [5訂版]』世界思想社、2021年。 小熊英二『基礎からわかる 論文の書き方』講談社、2023年。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時)/Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアピール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003006	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	王 維 / Wang Wei		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	王 維 / Wang Wei		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	王 維 / Wang Wei		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	担当教員に確認すること		
担当教員研究室/Office	担当教員に確認すること		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	担当教員に確認すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自立的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアビール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アビール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003007	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	GUELBEYAZ ABDURRAHMAN		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	担当教員に確認すること		
担当教員研究室/Office	担当教員に確認すること		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	担当教員に確認すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自主的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアビール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アビール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003008	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	寺田 ゆき / Terada Yuki		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	寺田 ゆき / Terada Yuki		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	寺田 ゆき / Terada Yuki		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	kuniyuki.terada▲nagasaki-u.ac.jp(メールをする際は、▲を@に置き換えてください。)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟11階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2921		
担当教員オフィスアワー/Office hours	事前に連絡して日時を決めてください。		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自立的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	対面で実施する。
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアビール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アビール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003009	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー(多文化) / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(科目責任者) / Instructor in charge of the course	李 頌雅 / LEE SONG YA		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Instructor(s)	李 頌雅 / LEE SONG YA		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目(第2欄), 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生(クラス等) / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	sylee▲nagasaki-u.ac.jp (メールを送信する際は▲を@に置き換えて送信してください)		
担当教員研究室/Office	総合教育研究棟11階 李研究室		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	金3-4限 (事前にメールでアポイントメントをとってください)		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自主的な学びの仕組み(アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明) 文章の書き方(アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング) 文章の読み方(クリティカル・リーディング) 情報リテラシーとモラル(引用の仕方、不正行為(剽窃・盗用)、情報リテラシー、教員への質問の仕方(研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む)) 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心(テーマ)の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力(1つ以上3つまで) / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法（学習指導方法）/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件（履修条件）/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員（上記連絡先参照）または「アシスト広場」（障がい学生支援室）にご相談下さい。 アシスト広場（障がい学生支援室）連絡先 （TEL）095-819-2006（FAX）095-819-2948 （E-MAIL）support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか (Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名／実務経験内容／実務経験に基づく教育内容（実務経験のある教員による授業科目のみ使用）/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション（対面） 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる（対面） 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎（対面） 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー（対面） 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問（オフィスアワー） 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアピール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ（対面） 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る 自習： テーマの絞り込みと 「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す（対面） 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎（対面） 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り（対面） 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ（対面） 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスチョンとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計（対面） 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査（オンライン・オンデマンド形式で実施） 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1)（対面） 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2)（対面） 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会（対面） 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2)（対面） 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ（オンライン・オンデマンド形式で実施） レポート作成

学期 / Semester	2025年度 / Academic Year 前期 / First Semester	曜日・校時 / Day・Period	火 / Tue 5
開講期間 / Course duration	2025/04/01 ~ 2025/09/28		
必修選択 / Required / Elective	必修, 選択, 自由 / required, elective, optional	単位数(一般/編入/留学) / Credits (General /Transfer/Overseas)	1.0, 2.0/32.0, 1.0/1.0,
時間割コード / Time schedule code	20250581003010	科目番号 / Course code	05810030
科目ナンバリングコード / Numbering code	GEFY 15021_001		
授業科目名 / Course title	●初年次セミナー（多文化） / First-Year Seminar		
編集担当教員 / Instructor in charge of the course syllabus	阪野 祐介		
授業担当教員名（科目責任者） / Instructor in charge of the course	阪野 祐介		
授業担当教員名（オムニバス科目等） / Instructor(s)	阪野 祐介		
科目分類 / Course Category	教養ゼミナール科目, 編入学生教養教育科目認定単位, 教養ゼミナール科目, 教職に関する科目（第2欄）, 大学院科目[構造], 自由選択科目 / Elective Courses		
対象年次 / Intended year	1, 2, 3, 4	講義形態 / Course style	演習 / Seminar
教室 / Class room	学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等） / Intended year (class)	多文化社会学部1年生		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	担当教員に確認すること		
担当教員研究室/Office	担当教員に確認すること		
担当教員TEL/Tel	担当教員に確認すること		
担当教員オフィスアワー/Office hours	担当教員に確認すること		
授業の概要及び位置づけ / Course overview	新入生を大学での学びの世界へといざなうとともに、論理的思考とその表現方法を習得することで、多文化社会学部での学習を円滑に進めることをねらいとする。具体的には、多文化社会学と高校までの学びとの関連、および他の学問分野との関連について学んだ後、受講生自らが立てた問いを、能動的なグループ学習を通じて深めていくことによって、人文社会科学的な思考方法、グループワークの進め方、調査の計画と実施、文書やプレゼンテーションによる表現方法の概要を身につける。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。 以上の授業概要及び位置づけに基づき、授業内容では以下を取り上げる。 自主的な学びの仕組み（アクティブラーニングとは何か、学修ポートフォリオの位置づけ、総合評価、各学部・コースのディプロマポリシーの周知、カリキュラムマップ・ツリーの明） 文章の書き方（アカデミック・ライティング、クリティカル・ライティング） 文章の読み方（クリティカル・リーディング） 情報リテラシーとモラル（引用の仕方、不正行為（剽窃・盗用）、情報リテラシー、教員への質問の仕方（研究室の訪問の仕方、オフィスアワーとは何か、メールの書き方を含む）） 著作権 生成AIの概念と応用 社会におけるデータ・AI等の活用事例 図書館資料収集ガイダンス 課題発見、リサーチクエスト、問題関心（テーマ）の選択など プレゼンテーションの方法 ディスカッションの方法		
授業到達目標 / Course goals	大学での学びの基本的構えを自分のものとするとともに、多文化社会学部の授業に参加するための基本的な知の技法を使って、ナンバリング100番台の学びの成果を生み出すことができる。		
知識・技能以外に、この授業を通して身につけて欲しい力（1つ以上3つまで） / Abilities other than knowledge and skills acquired mainly through the course (pick 1 to 3)	■汎用的能力 / Generic Competence □倫理観 / Ethics □多様性の理解 / Understanding Diversity ■主体性 / Autonomy ■協働性 / Cooperativeness □考えをやり取りする力 / Ability to exchange ideas □国際・地域社会への関心 / Interest in international / local society		
学生の思考を活性化させるための授業手法 / Teaching method to stimulate students' thinking	■A. 授業内容の理解度を確認したり自分で考えさせたりする活動
 / Activities to check the degree of comprehension of the contents to the lesson or to think over ■B. 多角的に考えるために他者と関わる活動
 / Activities involving others to think from various perspectives □C. 技能修得のために実践する活動
 / Activities to practice for acquiring skills □D. 問題解決のために知識を総合的に活用する活動
 / Activities that comprehensively utilize knowledge to solve problems □E. 上記以外の学生の思考の活性化を促す授業手法
 / Teaching methods to stimulate students' thinking other than the above □F. 教員からの講義のみで構成される
 / It consists only of lectures from teachers		

成績評価の方法・基準等/Method of evaluation	各回の演習課題(45%)、各回の議論・作業への参加度合い(30%)、学期末レポート(25%)
各回の授業内容・授業方法(学習指導方法)/Course contents of each lesson	詳細は授業計画詳細を参照
事前、事後学修の内容/Preparation & Review	【予習】前回の講義を受け、次の講義で説明されるテキストの該当箇所に目を通しておくこと。(2h) 【復習】講義内容について、テキストや参考書を読んで復習し、理解できない点は図書やインターネットを用いて調べ、それでもわからない点は友人や教員に質問し、解決すること。(2h)
キーワード/Keywords	大学での学び、カリキュラムと履修、資料収集、調査、グループワーク、プレゼンテーション、レポート・論文
教科書・教材・参考書/Materials	担当教員から授業中に指示する。
受講要件(履修条件)/Prerequisites	
アクセシビリティ/Accessibility (for students with disabilities)	長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員(上記連絡先参照)または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。 アシスト広場(障がい学生支援室)連絡先 (TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948 (E-MAIL) support@m1.nagasaki-u.ac.jp
備考/Remarks	
学生へのメッセージ/Message for students	「勉強から研究へ」、「沈黙は銅」、「脳より手を動かせ」をモットーに、知のフロンティアを開拓する意欲を持つことが何より大切です。 「長大生のためのラーニングティップス」 https://www.innov.nagasaki-u.ac.jp/content-result/student/
実務経験のある教員による授業科目であるか(Y/N)/Instructor(s) with practical experience	N
実務家教員名/実務経験内容/実務経験に基づく教育内容(実務経験のある教員による授業科目のみ使用)/Name / Details of practical experience / Contents of course	
授業計画詳細 / Course Schedule	
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents
第1回	はじめに：オリエンテーション 授業： 担当教員と受講生の自己紹介、 大学での学びの全体イメージを把握する(対面) 自習： 学生便覧を熟読し、質問事項をまとめる
第2回	問いを立てる 授業： 質問への回答、 大学での学びにおける自ら問いを立てることの重要性を知る(対面) 自習： 卒業までの学びの設計図を描く→時間外：個人面談、 いろいろなことに疑問を持ち、それをメモする
第3回	資料収集の基礎 授業： 附属図書館主催の資料収集ガイダンスに参加する(対面) 自習： 2自習- の続き
第4回	知のモラルとマナー 授業： オリジナリティ、著作権、引用、不正行為、生成AIの概念と応用、社会におけるデータ・AI等の活用事例、電子メール、教員研究室への訪問(オフィスアワー)(対面) 自習： 学習コンテンツを視聴し、それに基づいて自分の提案書のオリジナリティを主張するアピール文を作成する
第5回	問題発見からリサーチクエスションへ 授業： 個人的な問いから学術的・社会的意義のある問いへの展開の道筋を知る(対面) 自習： テーマの絞り込みと「アピール文」から「提案書」へブラッシュアップの準備
第6回	本・論文を探す 授業： 問いに答えるための書籍・論文の入手方法を知る(対面) 自習： 絞り込まれたテーマに関して書籍・論文のリストを作る
第7回	文献表の意義と作成とレポート論文執筆の基礎 授業： リストアップした書籍と論文を使って文献表の作り方を学ぶ、 レポート論文執筆の基本的考えを知る(対面) 自習： 実際に文献表を作ってみる
第8回	リーディングと研究ノート作り 授業： 文献表についてのディスカッション、 リーディングと研究ノート作りの基本を知る(対面) 自習： 文献表のブラッシュアップ、 主要文献の収集と図書館の活用実践、 文献の読解

第9回	調査から研究へ 授業： 問いと先行研究（文献）との関連において研究の社会的・学術的意義が定まっていく過程を知る（対面） 自習： 8自習- の続き、 リサーチクエスションとその意義を提案書にまとめるまとめる
第10回	グループ調査の設計 授業： 9自習- に基づいて全員の前で提案を行う、 グループ調査のテーマを決め、班分けする（対面） 自習： 班ごとのグループワークを通して、調査計画書を作成する
第11回	文献調査とフィールド調査 授業： 調査計画についてのディスカッション、 調査をする際の注意事項確認（「リサーチ入門」との接続）（対面） 自習： 文献調査を行い、手分けして読む、 予備的な調査を行う
第12回	プレゼンテーション入門(1) 授業： 予備調査の手応えを報告する、 プレゼンテーションの基本を知る（対面） 自習： グループワーク文献リストの作成と文献ノートの共有、 本調査を行う
第13回	プレゼンテーション入門(2) 授業： 文献調査と本調査の結果の速報版をプレゼンテーションする（対面） 自習： 調査データのブラッシュアップをする
第14回	研究発表会 授業： 他のクラスと合同でグループ調査に関するプレゼンテーションを行う、 ディスカッションに参加する（対面） 自習： グループワークを通して、「魅力的なプレゼン」のためのコツを共有する
第15回	レポート・論文執筆の基礎(2) 授業： プレゼンテーションについてのまとめ、 レポート・論文を書くためのポイントを確認する（対面） 自習： レポート執筆の最終計画と責任分担を明確にする
第16回	まとめ レポート作成